

# 同僚ら連携 男性救命

警備会社のホテールガード研修中に倒れた男性社員(51)の命を救ったとして、亀岡消防署(亀岡市荒塚町)が、同僚や研修の講師ら5人に感謝状を贈った。迅速な連携プレーで心肺蘇生の処置を施した結果、男性は後遺症もなく職場復帰できたという。

## 亀岡消防 5人に感謝状



迅速な救命処置を行ったとして感謝状を受け取った5人(中央と消防署員ら(亀岡市荒塚町・亀岡消防署))

## 警備会社研修中倒れ、AEDで心肺蘇生 後遺症なく職場に復帰

男性の同僚で京都市東山区の警備会社コトナ社社員の辻幸樹さん(39)や霊丘こはるさん(28)、嵐さくらさん(24)、講師だった小山内秀友さん(52)と小川翔平さん(33)。4日に同署で感謝状を受け取った。

研修は6月9日、亀岡運動公園体育館(曾我部町)であった。夕方、格闘術の訓練のさなかに男性が突然倒れた。近づいた小山内さんが「体が硬直し、呼吸がおかしい」と判断すると、間を置かず声が上がった。「119番をします」「自動体外式除細動器(AED)を持ってきます」。小山内さんと辻さんが胸骨圧迫し、小川さんが消防に通報し、霊丘さんと嵐さんが体育館のAEDを現場に持ってきた。倒れてから1〜2分後には最初の電気ショックを行い、2度行くと男性が意識を取り戻した。約10分後には救急隊が到着、男性は病院に搬送された。入院を経て、7月には職場復帰を果たした。

「すぐに役割分担が決まった。これ以上、早い救命処置はできないと思う」と小山内さん。嵐さんは「一瞬、時が止まったようだったが、『固まっている場合じゃな』と考えて動くことができた」と振り返った。

(中塩路良平)